

自其通領公界貿易の大部分は本國との間に行はるゝし他諸國との貿易も漸次發達しつゝありて一九二二年綿製品輸入額は三千九百萬法なり葡領西阿即ちアンゴラ最近の發達亦顯著にして一九二二年綿製品輸入額二千五百萬『エヌクド』なり英獨伊諸國は是等地方との貿易を重要視し米國亦直航汽船を有す其市場として將來刮目すべきものあるべし。

○文檢地理科豫備試驗問題（大正十三年十月廿一日）

第四十一問。

- 一、阿武隈川流域の地圖を描き其の人文地理を述べよ。
 - 二、山西省の地圖を描き其自然地理を説明せよ。
 - 三、湖水の定常振動（セイシュ）を説明せよ。
 - 四、赤經赤緯とは何ぞや。
 - 五、ヨーロッパの運河網を描き之につきて知る所を記せ。
 - 六、現今世界に於ける小麦の主要なる生産地と消費地とを挙げよ。
 - 七、左の地及諸項につきて知る所を記せ。
イ、プロトン海 Dronghon
ロ、世界の主要なる金産地
ハ、ドブルヂヤ Dobruja
ニ、北アメリカの太平洋沿岸にある主なる軍港
ホ、川邊特別區域
- 右四時間。

質 疑 應 答

新 刊 紹 介

○地理教育 大正十三年十月一日發行 地理教育研究会

かれて發刊の豫報のあつた地理教育研究会の機關雜誌として其の第一號が出たのは眞によるこぼしい。この研究会の發起人は東京兩高等師範學校地理科の教官諸氏を中樞として、東京の中等學校教員奈良廣島兩高等師範學校教官等の諸氏を加へた顔觸れで、地理教育の革新及び發展を天下に呼號せんとするものである。五十二字詰十八行さいふ極めて字數の多い百四頁の冊子で、地理學者としての稱南嶽、ケラツク國の建設と境界、カリフォルニア州の地理概要、支那の鐵道といつた様な論說、研究抄録、旅行談、教授研究、研究指針、教材研究、研究發表といつた様な研究欄が三五頁の多きに涉り、文檢資料、受験界をはじめ講座、質疑、時事抄録、新著紹介の諸欄があつて、編輯當局者の大車輪を想像するに餘りある。就中小學校教員檢定試驗問題、國語讀本に現はれたる地理上の教材、郷土地理實施の經驗等の如きは本誌の特色さといふべきもので國民教育當局者を指導する効果の大なるべきを實せざるを得ぬ。我々『地球』の刊行を維持さに苦心するものは特に本誌の健全に發展普及せんことを衷心より祈る。（藤田）

○關東大震災調査報告 (氣象編) 大正十三年八月 中央氣象臺發行

本書は中央氣象臺藤原博士の編述せられたもので、主として當時の氣象の異常について精述してある。即ち震災火災當時の天氣の變遷や、大火災の推移や、天氣の變遷と火事の影響や、所謂當時の東京旋風の概況を論じ、被服廠跡の慘劇に及び、火のみにては是程の被害は無かつたらうといふ結論が出てゐる。次に各地の旋風についての實驗談がのせてある、表や、寫眞や、地圖の類まで親切に集めてあるので一讀慄慄の感を生ずる。空前の大震災に關し、氣象上の變化について、かくまで精確な材料を提供された其勞苦に深大の敬意を表する。(藤田)

○鐵道旅行案内 大正十三年十月五日 鐵道省發行 發賣所 東京博文館

鐵道省から出る旅行案内類は、常に親切丁寧を極め、其記事の正確なること比すべきものがないことは喋々する必要がない中にも『お寺まわり』の如き優秀なる印刷製本があるが、本書は日本全國數千里に互る省線の案内で、大正十年度に試みられたる横線形の美本に、沿線の鳥瞰圖及名勝圖繪等を入れたのを新に訂正増補したものである、記事は鐵道營業案内、東京及其附近、東海道線、山陽線、中央線、關西線、北陸線、山陰線、徳島線、高知線、讃豫線、鹿児島線、川内線、日豊線、筑豊線、長崎線、東北線、總武線、信越線、磐越線、奥羽線、陸羽線、羽越線、函館線、宗谷線、室蘭線、根室線、網走線、名寄線の各線に互つて、市街名勝舊蹟のすべてを網羅してある外に、連

絡表や運貨表をそへてあつて、いかにも、氣のきいた體裁のいゝ本である。ここに驛からそれらの名勝へ行くべき交通機關に關しては、記事荷もせずであるから實に參考となる、人力車馬車、自動車、電車、鐵道馬車、飛行艇といつたやうなものまで、一々洩さず資金もあげ加ふるに一二流の旅館迄記してあるから安心して乗さるによい。蓋し遊覽といふ上から最良の案内書であるが、この上の希望は、この書が單に名所見物第一主義でなくて、地理學者の目に映する山川の地勢で誰にでもわかるやうな簡単な地文、人文の現象に關しても、適當な地點に於て説明が加へられてあるやうにありたい。換言すれば歴史の記述であるよりも地理學的記述でありたいと考へる。もしそれ挿畫の美はしさに至つては大正館繪家の稱ある吉田初三郎氏の靈腕に敬服して敢て贅せず。妄評多罪。(藤田)

質 疑 應 答

文檢本試験問題の中二三を左に答へることにします。
問 種々の施設を備ふる現代的商港を假想して其平面圖を描き各施設の名稱を記入せよ。

答 長谷川賢一郎著人文地理學第三編第三章、港の要件と設備をよ見よ但し同書に大連港岸壁の景を圖示すれども現在の大连は、同書の大正二年發行以後に於て第一埠頭北半部改築あり、第二埠頭は大正三年以後改築又は増築ありて大正十一年竣成し